

会 議 録

会議の名称		令和6年度第2回つくば市文化芸術審議会		
開催日時		令和7年（2025年）3月14日 開会 14:00 閉会 15:30		
開催場所		つくば市役所コミュニティ棟 会議室1		
事務局（担当課）		市民部文化芸術課		
出席者	委員 （計10名）	川村直子、野中勝利、田中佐代子、林みちこ、小澤慶介、 田中秀夫、飯野哲雄、根津陽子、矢島祐介、山中周子		
	事務局 （計8名）	大久保市民部長、中川市民部次長、大木市民部統括監、 矢口文化芸術課長、佐藤文化芸術課長補佐兼係長、 山本同主任、横田同主任、川崎同主事		
公開・非公開の別		■公開 □非公開 □一部公開	傍聴者数	0人
非公開の場合はその理由				
議題		（1）（仮称）つくば市芸術文化創造拠点整備の進捗報告 （2）つくば市文化芸術推進基本計画（第2期）に係る報告		
確定年月日		年	月	日
会議次第	1 開会 2 内容 報告事項 （1）（仮称）つくば市芸術文化創造拠点整備の進捗報告 （2）つくば市文化芸術推進基本計画（第2期）に係る報告 （3）その他 3 閉会			

<審議内容>

1 開会

<矢口文化芸術課長（以下、矢口課長）より開会を宣言>

2 議事

野中会長 ： それでは会議次第に基づいて議事を進めて参りますが、まず傍聴人について、希望者はおられないようなので、次第に沿って進めさせていただきます。

 本日の委員出席数ですが、委員 10 名中 10 名の出席ということで過半数を満たしておりますので、条例第 13 条第 3 項の規定によりまして本日の会議が成立していることを報告します。

 本日は報告事項が 2 点あります。1 番目が（仮称）つくば市芸術文化創造拠点整備の進捗について、2 番目がつくば市文化芸術推進基本計画（第 2 期）に係る報告について、以上の 2 点でございます。

 はじめに、報告事項（1）（仮称）つくば市芸術文化創造拠点整備の進捗について、事務局より説明を受けてから、委員の皆さまに御意見をいただきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

<報告事項（1）について事務局より説明>

小澤委員 ： 2 階は主にアーティストなどが使う場所なのだと思いますが、どういうアーティストやアートを想定している

とか、そういう想定があれば教えていただけますか。というのは、今、アーティストも作品も多様化しているので、その辺の議論をするべきではないかと思っています。図面を見てみると、何かテーブルか作業台らしきものがあるんですけども、これを見る限りでは心配です。

佐藤補佐 : アートは本当に多様化していきまして、作品が完成しないリサーチであったり、メディアアートであったり、多様なことができるようにと考えております。図面上のテーブルは全く我々も現時点では想定をしていない、単に図面上に仮としてあるだけのもので、テーブルは基本的には3階のストックルームに準備しておいて、使うときに下ろすことを考えています。またここでは、アーティストの方々や筑波大の学生さんなどからいただいた意見をもとに、メディアアートなどの制作のために暗幕が使用できるように考えています。まだまだ活用できる余地はあると思いますので、ぜひ引き続きご意見をいただければと思います。

小澤委員 : 他のレジデンス施設など、モデルにした施設はありますか。あと、何人くらいのアーティストからヒアリングしましたか。

佐藤補佐 : 2023年に視察した大阪府立江之子島文化芸術創造センターや、京都芸術センターをイメージしています。アーティストからのヒアリングは20人ほどから行いました。学生を除くと10人ほどです。

小澤委員 : そのアーティストたちは、他のレジデンスなどに参加した経験がある方々ですか。

- 佐藤補佐 : 参加したことがある方もおりましたし、一般の創作活動を行っている方もいらっしゃいました。
- 小澤委員 : できるだけ、特に海外など色々なレジデンスで経験を積んだ人に話を聞いてみると思います。あとはキュレーターなどでもいいですし、とにかく専門家に話を聞いて、ここを使う人が具体的にどういうものを望んでいるのかを、皆さんが見極めた方がいいですね。
- 佐藤補佐 : ありがとうございます。4月からアートコーディネーターも採用することができましたし、工事に入り、具体的な詳細が決まってくる中で、皆さんからアドバイスをいただきながら、また、いろんなアーティストにヒアリングをしながら進めていきたいと思っています。
- 野中会長 : 設計はできていますが、細かい仕様についてはまだ多少の造作はできるのかなと思っていますし、例えばコンセントの位置などの細部にもう少し留意していただくなど、実際にヒアリングなどを通じて様々なニーズを汲んでいただくことの可能性については、今のところ若干余裕があるかもしれませんので、よろしくお願ひしたいと思っています。
- 田中秀夫委員 : 素晴らしい中身のように見えます。ひとつ気になっているのが、アートゲート内に強風が吹きこんでしまうために対策をしなければならないのではないか、という提案が以前あったと思います。実際にどうなっているのか教えてください
- 佐藤補佐 : はい。そのようなご意見があり、両側の出入口2ヶ所分の設計を行いました。費用対効果の観点で、まずは

- 実際に風の程度を見てから判断すべきでは、という議論になり、現段階の設計には風よけは含めておりません。
- 野中会長 : アートゲートは完全に自由に通り抜けができる状態で供用開始し、その後の状況を見ながら追加工事を検討するということですね。
- 矢島委員 : 1階の地域利用スペースと、2つの多目的室の天井はどのような形になりますか。というのも、旧筑波東中にオープンしたジオパーク施設（つくばジオミュージアム）ではどの会議室も天井のコンクリートがむき出しで、反響がうるさくて会話にならないんです。思っていた以上に天井の板が大事だというのが、最近ちょっとわかったのです。
- 佐藤補佐 : 2階と3階については天井を抜く形になっていますが、1階については天井を新設します。
- 飯野委員 : 天井の素材が重要だと思います。もちろん天井だけではなく壁なども含めて、吸音材など、どういう素材を使うかだと思います。
- 山本主任 : 先ほどの矢島委員からいただいた課題に関して、実際にジオミュージアムに行き、その反響の具合を確認しました。その上で、こちらの地域利用スペースなどで吸音材などを貼り付けた天井とする予定です。
- 矢島委員 : ありがとうございます。
- 川村委員 : 新設する自家発電設備において再生可能エネルギーを利用していくといった視点についていかがでしょうか。
- 山本主任 : 現時点では、一般的な軽油等を使う予定です。
- 川村委員 : 現状、温暖化対策が非常に大事なところなので、間に

合う限りはぜひ検討をお願いできればと思います。

佐藤補佐 : 施設全体の話で、太陽光発電の導入について検討したのですが、屋根の形状が南向きではないため、採用しないという結論に至りました。

田中秀夫委員 : 音楽関係の部屋（パフォーマンスラボ1）の音響に関して、他の部屋への影響、また、その部屋の音響性能についてお聞かせください。

山本主任 : パフォーマンスラボ1については、既存の音楽室をベースとしつつ、扉を二重とし、壁に吸音材を設置するなどの対策を予定しています。遮音性に優れているとはいえないところではありますが、アコースティック音楽には十分対応可能と考えています。

田中秀夫委員 : あるいは外で活動している人に聞こえてもいいような場合もあると思います。いっそドアや窓を開けてしまって、というような。そういう場所でもあると思います。

野中会長 : おそらくこれは、完全防音ではなく、音漏れを緩和するという仕様なので、管楽器等だとある程度外に音が漏れると。それはある意味では、外に発信できるという捉え方もできますね。

山本主任 : そうですね。あえて外に聞こえるようなものを試みとして行うこともあり得ると思います。

林委員 : 小学校の躯体自体は大きくは触らないということですが、そうするとその温湿度管理の観点で、こういった作品であれば置けるかという条件ができてくると思います。空調は24時間空調ではないと思うのですが、その場合、温湿度対策はありますか。例えば展示室とされ

ているところには窓が多くありますよね。現代アートであればそのままにする場合もあると思いますが、通常、美術作品を展示する場合はそういうところはふさぐ必要があります。そもそも窓が多く寒暖の差が大きい小学校というこの建物において、窓をペアガラスにするなど、温湿度への対策について計画があれば教えていただきたいなと思います。

佐藤補佐 : ペアガラスなどの想定は現時点ではしておりませんが、温湿度の対策については今後検討していくことであると認識しています。

林委員 : 例えば日本画や紙ものの場合、温湿度を保てないと良くないです。ここで創作し、一時的に展示して、撤収する、というイメージだと思いますが、とはいえ環境は整えておかないと、カビが発生します。また、その躯体自体が温湿度の変化に対応できていないと、空調の費用が余計にかかると思います。そういった点が少し心配です。

佐藤補佐 : ありがとうございます。今後、温湿度対策を、設計業者と一緒に検討しながら進めていきたいと思っています。

小澤委員 : 2つありまして、創作室のピクチャーレールは不要だと思います。もうひとつは、壁についてですが、多少重いものも掛けられるようなコンパネなどの方が良いんですよね。スカスカのベニヤにクロス張りなどだと作品が掛けられないので。

野中会長 : 断面図からは、壁はコンクリートに塗装が施されているように読み取れます。

- 山本主任 : はい、既存のコンクリートを磨き仕上げの後、EP 塗装を施す予定です。
- 小澤委員 : 基本的にこの設計からは絵画を想定していることが読み取れます。これではとても使い勝手が悪いです。誰が、どういうアーティストが、どういう作品をここで作ったり展示したりするのかという議論も並行してやらないと、後で取り返しのつかないことになると思います。現代アートのアーティストだと、釘やネジなどでそのまま壁に掛ける人が多いんです。
- 山中委員 : 作家は作品をより良く見せる上で、基本的に線が見えてしまうことを嫌がります。ピクチャーレールは用意しておいてもよいですが、あまり出番はないと思います。加えて違う意見を申しますと、ガラス可動壁もまた絵画を想定して設計されているのではないかと、というのがとてもよく分かります。例えば、石や鉄などを使う石彫などを行う場合、ガラスに破片などが飛ぶ危険性があります。また、中が丸見えなので、作家によっては抵抗がある方もいるのではないのでしょうか。やはり、そういう点についてヒアリングが必要なんじゃないかというふうに思います。さらに、重いものを創作室から企画室に運ぶ場合、例えば小さいユニックが必要となるほどの重さの場合に、廊下がガリガリになるんですよね。それを考えると、簡易的なものでよいので、天井クレーンのようなものを創作室2から企画室1にひとつ通しておく、作家の幅が広がるかなと。とにかく想定される作家さんのことをもう少し広く考慮すると、変わってくるのではな

いかと思います。少なくともこれでは、絵画の人しか使えないんじゃないかという印象です。

林委員 : 先ほどの壁の話で言うと、いわゆるミュージアムボードといった、釘でもピンでも打てるものが基本です。そうでないと、両面テープのようなものに頼ることになり、壁がどんどん汚くなります。大学でもボードの上のクロスを定期的に貼り替えるという対応をしており、基本は委員の方々がおっしゃったように、壁に打てないと何もできないと思います。また、重いものについては、そもそも床の耐荷重がさほどないのかも、とも思いました。

野中会長 : 全ての部屋が同じである必要はないのかもしれませんが。委員の方々がおっしゃるような部屋を半分用意するパターンもあり得ると思います。予算のことを考慮すると、全ては難しいのかもしれませんが、いずれにしてもニーズをより多く吸収するためには、そういった資料をベースに検討を追加していただくと良いと思います。天井クレーンも含め、検討の余地はあると思います。

川村委員 : 最初に林委員がおっしゃってくださったペアガラスの話は温暖化対策にも関係してきます。さらに言えば断熱効果の高いガラスを選択するのか、という視点もあります。断熱をしっかりとしないと、エアコンだけかけてもエネルギーはどんどん出ていくし効きも悪いということになるので、天井の断熱をしっかりとるとか、壁も、外気に接する部分は、できるだけ断熱していくということが大事だと思うんです。今の予算の範囲や設計の範囲でど

の程度できるのかは分かりませんが、そういった点をしっかりと確認した方がいいと思います。

田中秀夫委員 : この市は美術館が少ないですね。こういう建物に私が期待するのは、展示の場としての役割です。何度も言えばアートゲート、これがかなり大事だと思うんですね。アートゲートで1ヶ月に1～2回展示する、それを見に行く。それが多くの市民の人にとってとても大事なんです。ここに私が行くとしたら、使うというよりもむしろ見に行きます。アートゲートのところで例えば注意しなきゃいけないのは、絵画など平面作品ばかりではなく、彫刻など立体作品を展示するといった工夫を凝らしてほしいです。おそらくむしろアートゲートが、多くの人が集まっていく場所になると思います。毎月どういう絵が飾られてるんだろうか、どういう彫刻があるんだろうか、それがすごく楽しい場所にしたらいいと思うんですね。ここからは筑波山が見えますし、非常に良い設計ができているわけなので、市民の人がたくさん集まるような場所にするには、部屋を使うばかりでなくむしろギャラリーとしても捉えたらいいんじゃないかなと。

根津委員 : 私はときどきつくばに東京から高速バスで帰ってくるんですけど、二重橋で降りて、東京駅の下を突っ切って歩くんです。すると駅の下の通路には、両脇に様々な作品が飾ってあり、とても楽しいなと思いながら見て帰ってくるんですね。アートゲートの通路の両脇に何かあったら楽しいなと思っていたんですけど、素通しのままだと、全て風で飛んでいってしまうと思います。東京駅の

ようなガラス張りの展示スペースがあったら楽しいなどは思うのですが、そういう常設の展示があり、定期的に変えていけるような場所であってほしいし、アートゲートの通路自体は、基本的には常にオープンで誰でも入れるところだと思うので、多くの人が見に来てくれたらいいなと思います。

野中会長 : このアートゲートの仕様だと、ピクチャーレールがあり、スポットライトが付いているというのは、やはり平面作品の展示ができるような設えでということなのでしょう。おそらく、運用が始まってから、あらかじめというよりは徐々に育てる、というような考え方もあるのかな、という印象を持っているところです。

林委員 : アートゲートが吹き抜けになる場合は、ピクチャーレールがあっても絶対に絵が掛けられないと思うんですね。できるとしたら壁に直接何かを描いて、それを毎回上から戻して、といったことしかできないかなと思います。絵はほぼ掛けられないし、置けないかなと。ポスターも飛んでしまうと思いますし。例えば強化ガラスの全面ケースをここに設置するという案もあると思うんですが、このアートゲートの長さだととても高価に、良いガラスだと億単位になるのではないかと思えるほどの長さなので、無理かなと思います。完全な吹き抜けではなく例えば自動ドアを付けたとしても、冬につくばは風が強いですし、過酷な環境になると思うんですね。実は筑波大学内の同じような場所で、両面に自動扉があるエントランスに絵を掛けたことがあったんですよ。すると、人

が出入りするときに入ってきた寒気でアクリルが収縮して、額からバーンと外れて落ちた事故がありました。環境面からすると、そういった事故に繋がりがねないので、吹き抜けのところに絵は掛けられないかなと。単に廊下にして、壁に描くくらいでいいんじゃないかと思います。

野中会長 : 子どもたちが来て日々壁面が変化する、というような、それがそのままイベントやワークショップになるかもしれないし、チョークアート的な、そういった壁面の利用について工夫することは、場合によっては変化があって良いと言うこともできるかなと思います。

田中佐代子委員 : 展望デッキの辺りは、時間が経ってくるとごみや枯葉などが溜まってしまう気がします。その辺りのメンテナンスを考えた方が良くかもしれません。

野中会長 : 田中委員がおっしゃるように、かなり大きなスペースとは言え、日々掃除等しないと色んなものが溜まってしまう状況になる可能性があるので、その辺りは実際に供用開始になってから様々な工夫が必要になってくると思います。ちなみに14ページの右側のパースだと観客席の上にテントのような日よけができるようですが、それを支えるポールの位置が一方で図面の方には見当たらず、実際のところどうなるのか気になります。

山本主任 : 当初は固定式の、差し込むようなタイプを想定していたのですが、例えばつまずいて転倒してしまう原因になるといったリスクから、可動式の足に重りがついたタイプの日よけを想定するという内容に変更となりました。

野中会長 : いえ、元のパースの方が良いんです。例えばポールが立って、そこからロープを伸ばすと、そこに色々できるんですよ。旗を掲げるなどはもちろん、様々な形でそういった一種のパフォーマンスというか、アーティスティックな活動の場にもなるので。おそらく屋外においても、例えば展望デッキを展示に利用することを想定すると、そういう装置ができるような仕掛け、工夫はあらかじめ用意しておくが良いと思います。後から付けるのは結構大変です。

矢島委員 : 2階の企画室の上がパフォーマンスラボなのですが、例えば、ダンスの公演や練習などの企画を入れたときに、下の企画室に響かないかが少し心配です。あと、パフォーマンスラボで例えば映画を上映する場合に、逆に創作室の工具の音が響いてこないかがまた気になります。建物の右側が鑑賞スペースで左側が創作スペースになっているので、その間は扉などをしっかりと防音できるものにした方が良いのではないのでしょうか。音が室内から漏れる、という観点よりむしろ、位置関係で音が上下左右にどう伝わるのかをあらためて計算した方が良いと思いました。

佐藤補佐 : 確かにパフォーマンスラボ1に関しましては、二重扉等ある程度防音性を高める施しを行う予定ですが、一方、特にダンス等での利用を想定しているパフォーマンスラボ2は、現状では既存床を活用する設計になっていますので、御指摘を勘案し、施工時に調整したいと思います。

飯野委員 : オープンに向けて2点あります。令和8年度中にグラ
ンドオープンということですが、より多くの方にいらし
ていただくために、つくバス北部シャトルの停留所を最
寄りに設置するよう早めに調整すると良いと思います。
もう1点は、せっかく令和8年11月にはオープンでき
そうなので、市民文化祭に合わせてのオープンを目指す
と、市民の皆さんに知っていただく上で効果的かと思ひ
ます。

野中会長 : 貴重なご意見ありがとうございます。特に2つ目につ
いては、4月からアートコーディネーターの方を含め、
この審議会で今後どのように盛り上げていくのか、ご意
見などをいただけたらと思っています。時期的にはちょ
うど秋なので、市の通例イベントとのコラボレーション
も検討に値すると思います。報告事項1についてはここ
までとし、続いて報告事項2のつくば市文化芸術推進基
本計画（第2期）に係る報告について、事務局の方から
ご説明いただきたいと思っています。

<報告事項（2）について事務局より説明>

小澤委員 : アートコーディネーターが決まったのは良かったなと
思います。ただ、今日あらためて芸術文化創造拠点の設
計を見てみると、これは素人がやる仕事ではないなっ
ていうのを実感しました。市役所の皆さんが計画を立て
てこうの方がいい、ああの方がいい、と言いながら、
設計業者とも協議して進めてきたと思うんですけど

も、このままの体制でやっていくのは非常に無理があるのではないかと想像しているんです。かと言って、本来プロがやるべき仕事を、アートコーディネーター1人に任せてしまうとそれはそれで大変なことになると思うので、今後、アートコーディネーター1人だけでなく、仕事を分担してできるような専門員を何人か設置する計画はあるのかを聞いてみたいと思います。

佐藤補佐 : まずは「アートコーディネーター」ということで、美術分野に長けたコーディネーター1名の採用が実現する段階まで来ました。ただ、市では美術以外の分野の方も必要であると考えており、今後、別分野のコーディネーターの採用準備を進めようとしているところです。

田中秀夫委員 : 実際にどのくらいの人員規模・構成で進めていくかという問いに対して、次を検討しています、という形ではなくて、それももちろん大事なのですが、全体の人員規模について考えると、これはかなり大きな規模で運営管理されていかなければならない施設になると思います。今回も、アートコーディネーターを1人選んで、いま質問があって、もう次を考えています、とお答えになりますが、どうもそういう、後追いのような形で進めていらっしゃるように見えるんですね。人員規模・構成はどう考えているのか、その予算は平気なのかと私は心配していますが、それくらいかなり大きな規模なんですよ。これだけの施設の運営にはコーディネーターだけではなく、アートセンター的な施設を管理する専門家、事務の専門家が必要だと思います。さきほど飯野委員が

言われたように、市民文化祭等のことも含めて、このような飾れる場所は、募集すれば多くの人が「飾る」と言
って出てくるんですよ。そんな形でギャラリーのように
変わっていくので、配置や壁のあり方だとかを判断で
きる専門家がやはり必要になるだろうし、そういった人
を含めて全体の構成がどうなるのか、と思っています。
建物もすごく立派だし、使う人よりも私たちのように見
る方が多いので、そういう意味でもアートゲートに展示
することもすごく大事で、それができて初めて市民の建
物になってくると思うんです。だからこんな立派なギャ
ラリーができれば、自然と人が集まってくるのではない
か。そうして良い作品が出てくれば、さらにそれで人が
集められる。そういう形の中で一生懸命やる人が生まれ
てくる。そういう面で考えてみると、かなり立派な建物
であるから、やっぱり管理を含めて、予算を相当に用意
しておいてもらわないと、と感じました。

野中会長 ： マネジメントに関する予算は、それなりに確保してい
くってということになるんですよ。実際の予算だけでど
うやって運営していくのか、もっと専門員が必要である
という御意見もありましたが、運営体制についても今後
詰めていく必要があるだろうという御示唆かと思いま
す。よろしくお願いします。それでは、本日の報告事項
は以上となります。委員の皆さま、ありがとうございました。
以上で議事を終了します。進行を事務局にお返し
します。

矢口課長 ： 野中会長、議事進行ありがとうございました。委員の

皆様におかれましては、慎重なる御審議、誠にありがとうございました。

3 その他

<佐藤補佐から令和7年度つくば市文化芸術審議会の回数・日程について>

<令和7年度第1回審議会は6～7月を予定>

<内容は「つくば市文化芸術推進基本計画（第2期）の令和6年度評価について」「（仮称）つくば市芸術文化創造拠点整備の進捗について」の報告を予定>

<後ほど、別途連絡をとり、日程連絡を実施>

4 閉会

<矢口課長より閉会の宣言>